

【感想】 京土会から援助をいただき、インドネシア共和国スマトラ島ブンクルに滞在し KiDS (Kyoto University Disaster Prevention School)の活動に参加いたしました。

今回でこの活動は14回目となりました。スマトラ島はこの活動を始める要因になった2004年のスマトラ島沖地震で大きな被害を受けた地域です。今回の KiDS の活動では8つの小学校を周り、防災に関する劇(インドネシア語)を見てもらった後、東日本大震災のビデオを見せて防災に対する知識の提供と意識の向上を図りました。また、防災に関するカルタを用いたグループワークを行い、生徒たちの積極的な参加を促しました。防災教育は人命を救ううえで不可欠な要素であり、このように小学校で防災教室を開くことは彼らや彼らを含んだコミュニティにおいて非常に有意義であり、我々はそれを目的として活動しました。今回は京都大学から日本人5人インドネシア人4人が参加したほか、地元のブンクル大学の土木工学を専攻する学生8人、ブンクル大学の教授、そして創設者である清野教授の協力のもと行いました。最終日には在インドネシア日本大使館に表敬訪問し、防災に対して官民両方の協力が不可欠であることを再確認しました。

自分が専攻している学問的な土木工学から少し離れ、直接的に貢献するこの防災教育活動を通じて、それら両方の重要性・つながりを感じました。インドネシアで現地の小学生・大学生、そしてインドネシアの言語・文化などに触れ、多くのことを感じ、学ぶことができました。ご支援いただき本当にありがとうございました。